PILOT magazine

Culture of SAPPORO / HOKKAIDO / JAPAN
SINCE 2004
DECEMBER, 2012
www.pilotfree.com

Story of Accessories

Pilot Publishing co.,ltd.

CAL 2012/12/23(SUN)12:00 RENEWAL OPEN

この度のリニューアルに伴いましてCAL STORE / CAL STARは、CALへ統合します。Men's，Lady's，UNISEX，USED.....新しいCALでは、私たちが自信を持ってお勧めするセレクトアイテムをお楽しみいただけます。

当日はレセプションパーティーとして、19:00～ウェルカムドリンクとフィンガーフードをご用意させて頂きますので、是非お誘い合わせの上、皆様のご来店心よりお持ちしております。（※無くなり次第終了となります。）

MEN'S FLOOR	3F
アバンギャルド SAPPORO CHAPTER & USED/VINTAGE(LADY'S) FLOOR	2F
LADY'S & UNISEX FLOOR	1F

2F アバンギャルド SappporoChapter

原宿のレッグウェアーを中心としたセレクトショップアバンギャルド。アバンギャルドオリジナル「タトゥーストッキング」は、今年のヒット商品「best20」に選ばれるなど、日本を初め世界中の大人気アイテムとなりました。
原宿本店以外にNYやhong kong等のセレクトショップにて展開中のアバンギャルドが、この度「アバンギャルド／札幌チャプター」として、CALに全商品を展開！

Kazuhiro
アバンギャルドのオーナーであり、今年日本中で大流行した「タトゥーストッキング」の仕掛人。「世界で最も長いモヒカン」と言う記録を樹立し日本人初のギネスブックの巻頭を飾る！オープン初日この髪型で来店！

Momo
レッグウェアをこよなく愛するSocks lover girl。現在はアバンギャルドのマネージャーを務めレッグウェアの魅力を多くの人に伝えている。

オープン当日はこの２人も駆けつけます！

リニューアルオープンを記念して制作したCALxアバンギャルド限定オリジナルストッキングも販売開始！

CAL

海外セレブ愛用ブランドや、LA西海岸のVINTAGEアイテムをなどの個性あるファッションアイテムや、70sカリフォルニア・アメリカンスタンダードをコンセプトにアイテムを展開するセレクトショップ。

札幌市中央区南2条西3丁目1番地2 三番街ビル 1F-3F
（Softbankさんと藤田メガネさんの間です）

☎ 011-242-0350
OPEN 12:00 CLOSE 21:00

CAL

http://www.hr73.com/

Story of Accessories

それはまるでひと目惚れの恋のように、一瞬で心奪われてしまう運命的な出会い。
時代や国境をも超えて巡り合わせた、その一点にはストーリーが込められている。
肌身離さず、同じ時を共に刻みながら、他には代えられない特別な品へと育まれていく。
たったひとつのアクセサリーでも、きっと明日は小さく輝き始める―。

札幌から発信する、〔MEDO〕のエナメルブローチ。

ヤマダ カズユキ／『MEDO』デザイナー

伝統的な工芸技法・"七宝焼"によるブローチを展開する〔MEDO〕デザイナー・ヤマダカズユキ氏が手掛ける、遊び心のあるモチーフと独特なタッチ、ポップなカラーリング、そして独特の質感や風合いが魅力のブローチは、今、道内外から多くの注目と話題を集めている。

「本格的に始めたのは今年の6月くらいからなんですけど、もともと趣味で作っていたんですよね。車が好きなのでエンブレムが"七宝焼"で作られているのは知っていて、身に付けられるものがあったら面白いなと思って、教室に通い始めたんです。絵は昔からよく描いていて、編み物やフェルトもやっていたし、もともと手先が器用だったのでモノ作りは好きだったんですよね。そのうちに遊びで"フキダシ"の型を作って、自分で身に付けたり、友達にプレゼントしていたんですけど、評判が良かったので試しに知人のショップのイベントで販売したのが始まりです。」

金属の表面に色とりどりのガラス質の釉薬をのせて焼き付けた"七宝焼"は、ヨーロッパでは"エナメル"、中国では"琺瑯"とも称され、古くから世界中で親しまれている。

「はじめに銅板をカットして、その上を叩いて強度をつけます。叩いたものに裏地を付けて、下地を塗ると色が塗れるようになるんです。人気のある"歯"の型は、銅板を切ると出る余りから大きめなものをカットして作っているんですよね。色を付けるためのガラスの粉は混ぜ合わせて調合できないので、決まった色しか選べないんですけど、こういうベタっとした色合いはあまり使われないかもしれません。大体800〜900度位で焼くんですけど、焼いた時間によって色ムラが出たり、濃さが変わるので、自分なりに微妙な調節をしています。あと、独特の質感も気に入っていて、本来は研いでツルンとさせるんですけど、あえてデコボコさせたり、気泡が入っているのをそのままにしています。二度と同じ形のものを作れなくて、全部がワンオフなので特別感もあると思います。」

表面の艶や色の出方が様々に変化し、どれもひとつとして同じものは無い"七宝焼"の魅力は、知れば知るほど奥深い世界だ。

「まわりでは誰もやっていなかったのと、やっぱりこのトロンとして光沢のある質感が"七宝焼"ならではで、古くからある伝統的な工芸でおかしなものを作るのは面白いかなと思うんです。心得のある人なら簡単にできてしまうし、ちゃんと"七宝焼"をやられている方のものとは比較にならないんですけど、逆に他とは違う個性や味わいがあるように感じています。通っていた教室の先生が作家さんで良い人に巡り会えたのは大きかったですね。」

どこか懐かしくもあり、新しくもあるような、世代を超えて惹き付ける普遍的な魅力がある。

「もともと個人的に趣味で古いバッチをたくさん集めていて、好きな形や柄を組み合わせて付けたりしていたんですけど、単純に人が付けていないものが欲しかったんですよね。"フキダシ"の型を作った時に手応えを感じたのと、まさに自分が欲しいものだったんです。自分の好きな人物の顔を作ったり、頼まれたモチーフを作ったりしたんですけど、せっかく自分が作るのなら、探しても買えないもの、ありそうだけど手に入らないものを作りたいですね。高校生の頃からファッションも好きなんですけどアートも好きだったので、ネタはまだまだいくらでも拾えそうです。」

その人柄が慕われ、ショップスタッフやクリエイターからの大きな声援を励みに、ここ地元・札幌から確かな一歩を歩み始めている。

「お題やイメージをもらって作ったり、ショップのキャンペーン用プレゼントとして使っていただいたり、いろんな機会をみなさんから与えていただけているので、本当にありがたいし、感謝しています。これで何かしてやろうなんて大それた気持ちは全くなくて、ゆっくり突き詰めて面白いものを作れたら良いですね。今はいろんな人を紹介してもらったり、ウェブサイトも準備しているので、ひとまず来年一年はじっくり取り組んでみようと考えています。」

"七宝焼"の銅板。強度をつけるため叩いたものに下地を塗り、表面に着色するためのガラス質の釉薬をのせて焼き付ける。

【MEDO】
メイド・イン・札幌のブランド。遊び心のあるモチーフと独特なタッチ、ポップなカラーリングが魅力的な"七宝焼"ブローチを展開。
URL http://m-e-d-o.com

『LOCK STOCK』
住所 北海道札幌市中央区南3条西1丁目3-5（狸小路1丁目内）
TEL 011-252-1969
URL http://www.lock-stock.jp

ピアス | for daughter
¥1,500–〜¥3,500–

すべての“娘”達に贈る "for daughter" のハンドメイド・ピアス。

佐々木 麻美
『Turqoise』オーナー・ネイリスト

今年10月17日にNEWオープンしたネイルサロン『Turqoise』の店内にさりげなく並べられるアクセサリーの数々。【for daughter】は、オーナーでありネイリストでもある佐々木麻美氏が手掛ける、ハンドメイドのアクセサリーブランドだ。

「“すべての女性達＝娘”である人達の日常にそっと寄り添えるような存在でいたいと考えています。女性にとってジュエリーとは、自分を見せるために欠かせないアイテムです。リラックスしている時、背筋をピンとのばしていたい時、様々なシーンをイメージしながら、ひとつひとつ想いを込めて製作しています。」

一点一点すべて色や形の異なるアイテムは、どれも女性らしい華美さや力強さを感じさせながら、あたたかみや素朴さがほどよく調和されている。

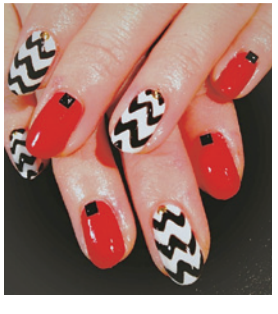
「型にはまらず異素材を自由に組み合わせて製作しています。特にピアスが好きなので、ピアスばかり作ってしまいますが。個人的には“ファッションに合わせて”というよりも、“ピアスはピアス”くらいの存在感が好きですね。」

一見個性の強いアイテムも、自身のスタイルに自然と馴染んでくれるから不思議。

「レザーやウールを使ったものは、今のこの時期は特に楽しめると思います。みんな大好きなキラキラ、シャラシャラは年中身に付けられますから。今後はピアスに合うネックレスやブレスレットなども製作していきたいと考えています。お気軽な感じのオーダーメイドなんかもやってみたいですね。」

派手可愛から大人上品まで、1ヵ月経っても飽きのこない長持ちジェルネイルを提案。感性溢れる表現と繊細な技術は顧客から絶大な信頼を得ている。プライスも良心的で、ジェルネイルはアート込の定額制となっており、付け替え除去も無料（ジェルのみ）。アートは5本前後、色変えは2色まで、長さ出しも2本まで追加料金が掛からないので、安心して存分にネイルアートを楽しむことができる。完全予約制で、出張も可。

『Turquoise』
住所 北海道札幌市中央区南1条西6丁目
第2三谷ビル–4F
TEL 011–272–8133
URL http://www.turquoise–nail–jewelry.com



Tassel Twins | ¥3 ,780–
Coin Bracelet | ¥7,140 –
Round Purse | ¥5,040 –
Card Case:
#red | ¥5,250 –
#yellow | ¥6,300 –
#black | sample –
Hair Elastic | ¥1,890 –

出会いの奇跡に感謝する、 "amarillo" の 一点物レザーアイテム。

タカハシ アイリ
『amarillo』デザイナー

ヘアーアクセサリーやブレスレット、コインケースなどのレザーアイテムを主に展開する【amarillo】は、デザイナー・タカハシアイリ氏のハンドメイドによるオリジナルブランド。発色の良いカラーリングと民族調をモチーフとしたシンプルなデザインが魅力だ。

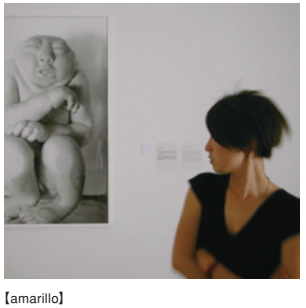
「ブランド名の【amarillo】（アマリージョ）は、スペイン語で黄色。太陽や月を象徴する色。日本人の肌の色。男性にも女性にも取り入れやすい色。そんな存在でありたいという想いから名付けました。インスピレーションの源となるのは、旅先で出会った先住民の手仕事や文化。プリミティブな世界観を日常に落とし込んだ作品を楽しんでいただきたいです。独学で身につけた編込み手法やステッチなど、オールハンドメイドにこだわり、すべてが一点もの。枠にとらわれないフリースタイルなものづくりが特徴です。基本的には自分の欲しいもの、あったら良いなと思うものを作っています。“Tassel Twins”は【amarillo】としての初作品。バッグのチャームとしてだけでなく、アクセサリーにも応用可能。揺れる度に様々な色が顔をのぞかせ表情を変えます。」

長く製作活動を続けてきた彼女だが、プライベートでの結婚、妊娠、出産を経て、大きな転機を迎えた。ブランドとしての新たなスタートは、真っ直ぐに前を見据えた強い決意を感じさせる。

「10年くらい前からセレクトショップ『ocho』に所属して、そこでビーズなどのパーツを使ったレザーアイテムを製作し、店頭やイベント会場などで販売していました。初めて作ったのはバッグ。自分が欲しいものを探して古着屋をまわったのですが見つからず、もらった道具で知識も無いまま見よう見まねで作ったのがきっかけです。それからまわりの友人からのオーダーをきっかけに広がりはじめ、一時休止を挟みながら現在も続けています。自分が思い描くように上手く作ることができずに悩むこともあったのですが、商品をお待ちいただいているお客様を思って、つながりを感じながら製作をしています。ブランドとしてスタートさせたのは今年10月からなのですが、出産を経て決意を新たに活動をスタートさせたかったからです。育児をしながら自分のペースで活動しているため、シーズン毎など定期を決めず、まずは少しずつ、集中して編み込み作業をしています。」

授かった子供を優しく見守りながら、新たなブランドも同じ時を刻み共に成長してゆく。

「来春からの本格始動に向け、現在は育児の合間に少しずつ小物を製作したりオーダーのお客様に対応しています。2月22日（金）から24日（日）、ヴィンテージショップ『Mémoire』との合同エキシビジョンを開催します。バッグやクッションなどの新作サンプルを展示して、受注販売する予定です。」



【amarillo】
2012年よりスタート。旅先で出会った先住民の手仕事や文化からインスピレーションを得て、プリミティブな世界観を日常に落とし込んだ作品を展開している。
URL http://www.amarillo.jp

『MACRO』
住所 北海道札幌市中央区南3条西1丁目 タカラビル–3F
電話 011–271–0396
URL http://www.macro–lab.com

『ocho』（kitchen TORONJA内）
住所 北海道札幌市中央区南3条西9丁目998–5
電話 011–242–0224
URL http://www.ocho.jp

“手”シリーズ
ブランドのメインとなる作品。
シンプル、病気（ドット）、色・蛍光色など、
バリエーションも豊富。

想像を創造する、"sippo's sampling"の独創的ブローチ。

“まる、さんかく、しかく”シリーズ
木目を生かしつつも大胆な配色や組み合わせが多いブローチ。

“隕石ブローチ”
フリーハンドによる多角形を生かしデザインのブローチ。

スズキ シホ
『sippo's sampling』デザイナー

自由な発想による独創的なブローチを展開する【sippo's sampling】。デザイナー・スズキシホ氏は最近までフルート奏者として音楽活動を行っていた異色の経歴を持つ。

「フルートでの音楽活動をお休みしたのはあくまで個人的な理由で、モノは最終的に完成したものを提供しますが、演奏はその場で観客と一緒に創り上げていくものなので、本番で伝えたいことすべてを表現しきれないのをジレンマに感じていたからなんです。自分のスタンスで表現を突き詰めていきたいと考えるうち、自然とモノ作りへとシフトしていきました。」

作品は多種多様な素材やパーツの組み合わせと、意外性に富んだ配色のカラーリングが絶妙に調和しているのが魅力。

「基本的にはすべて自分で身に付けたいものを作っています。ブランド名の“シッポ”は中学からのあだ名で、“サンプリング”は「採集」の意味と、音楽用語の「サンプリング」の意味も含まれています。私の作品はデザインに特化したラインと、木材を主にしたラインのふたつに分かれていますが、女性の洋服はその日によって変わりますし、その時々で身に付けたいものも変わるので、バリエーションがあると喜んでいただけるのではないかと思います。」

アイデアの断片を採集し、独自のフィルターを通して生み出される造形は、独学による試行錯誤が繰り返されながら、今後さらなる期待を感じさせる。

「頭の中に浮かんだイメージを整理しながらスケッチしていくのですが、ひとつひとつにこだわった意味は特に持たせていません。あとは、できるだけ既存の型は使わずに、シリコンで型をとったり、削り込んだものを型にしているので、基本的には一からデザインしたものを型として使用しています。最近になってようやく機材もひと通り揃ってきて、いろんな素材を扱えるようになってきましたが、最初はカッターだけで作業していました（笑）。幸運なことに、まわりにクリエイターの知人が多かったので、参考になるアドバイスをいただいたりと人には本当に恵まれています。」

【sippo's sampling】
目に見えるものを“sampling（採集）”し、それをシンプルに表現したアクセサリーを製作。2012年1月から活動を開始。同年1月より札幌の『Brown Books Cafe』にて販売。また、イベントや展示会など不定期に販売を行っている。
URL http://sippo-web.net

『Brown Books Cafe 南三条屋根裏店』
住所 北海道札幌市中央区南3条西1丁目9
和田ビル-3F
TEL 011-221-6333
URL http://brownbookscafe.com

人見知りのヘルバニア｜¥2,200-

強烈な違和感が虜になる、"OKYU"の不気味なアクセサリー。

フェイクファーヘアゴム｜¥1,200～

オケ
『PICO』店主・『OKYU』デザイナー

知る人ぞ知る、創成川イーストにあるバー『PICO』の店主であり、デザイナーでもあるオケ氏がハンドメイドで手掛けるブランド【OKYU】。趣味が高じて、2006年からブランドとして本格的に展開。本人曰く「裏側の人間から愛されている」と、現在は店内の片隅にてこっそりと展示・販売されている。カウンターでハイボールを2杯飲み干し、「例のブツを…」とオーダーすると、“ジップロック”に無造作に詰め込まれたアレが、まるで違法な密売品かのようにカウンター越しから差し出される。一瞬オサレーな印象を与えるも、見れば見るほどソレは圧倒的な違和感や不気味さを漂わせる。むしろ、こちらの反応をふてぶてしく観察しているかのようだ。『何コレ、気持ちワリイ!』は褒め言葉ですね」と動じることなく胸を張るオケ氏。幼い子どもに見せるのを思わず躊躇してしまうほど斬新過ぎるデザインは、強烈な個性と独創的な存在感を放っている。しかしながら、ひとつ何かを失い、新しい何かを得て、生まれ変わったかのような、不思議な愛らしさが潜んでいるのも間違いない事実である。支払いを終えてふと目をやると、そのつぶらな瞳は、まるで雨に打たれて震える子犬のようにも感じてくる…「…く、ください!」。そんなアナタはもう完全に取り憑かれた中毒者〈ジャンキー〉だ。「いつかひとつの国を作るのが目標ですね。」一攫千金を確信してオケ氏は今日もブツをコツコツと作り続ける。ソイツらはカウンターの奥で今夜もあなたと出会う、その時を待っている。（※本文はごく一部フィクションです。）

【OKYU】
2006年スタート。札幌・創成川イーストにあるバー『PICO』の店主であり、デザイナーでもあるオケ氏が手掛けるハンドメイド・ブランド。ブランド名は三角好きなデザイナーのあだ名とお灸の形から由来。ニットを中心に、ブローチやシュシュなど小物やアクセサリーを展開。バーの店頭にて展示・販売されている。

『3.7坪の飲食店 PICO』
住所 北海道札幌市中央区南2条東1丁目1 m's east-1F
TEL 011-210-0234

プリントブローチ｜¥1,200～

松浦 未来

『MILKFED. AT HEAVEEN27 SAPPORO』
スタッフ

「“MILKFED.”のロゴと星をあしらったシンプルなネックレスの2本セットになっています。華奢なデザインなのでコーディネートを選ばず、普段使いもしやすいです。2連になっていますが、1本づつ別々に分けても使えるので、その日の気分で楽しんでいただけます。」

HANGING STAR NECKLACE
MILKFED. | ¥4,200–

『MILKFED. AT HEAVEEN27 SAPPORO』
住所 北海道札幌市中央区北5条西2丁目
札幌ステラプレイス センター–5F
TEL 011–209–5514
URL http://www.milkfed.jp

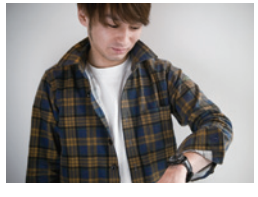
田中 みか

『XLARGE® / X–girl SAPPORO STELLAR PLACE』
スタッフ

「鍵をモチーフにした、女の子らしさを際立たせるキーアイテム☆どんなスタイルにも合わせやすく、可愛いらしいデザインが魅力。首まわりにワンポイントとして取り入れるとさりげなくオシャレを演出してくれます！」

STAR–SHAPED KEY NECKLACE
X–girl | ¥5,040–

『XLARGE® / X–girl SAPPORO STELLAR PLACE』
住所 北海道札幌市中央区北5条西2丁目
札幌ステラプレイス センター–5F
TEL 011–209–5502
URL http://stima.jpn.com



澤口 陽介

『FAT 11』
スタッフ

「シンプルなクロノグラフウォッチは、機能性はもちろん、コーディネートのアクセントにも最適。気分に合わせて3本のベルトを付け替えて楽しめるのもポイント。程良い重量感があり、付け心地も抜群です。」

FATTIME
FAT | ¥29,400–

『FAT11』
住所 北海道札幌市中央区南3条西2丁目3
WALLHALL–1F
TEL 011–261–1103
URL http://stima.jpn.com

大西 渉

『XLARGE® / X–girl SAPPORO』
スタッフ

「1950年代のアメリカで大流行したメキシカンリングをモチーフに、正面に“OGゴリラ”ロゴ、サイドには“バナナ”が添えられています。リングははめる一本一本の指にそれぞれ意味があるので、調べてみてはいかがでしょうか。ちなみに…僕は左手親指です！」

MEZICAN STYLE OG RING
XLARGE® PRESIDENT LABEL× KASUGA
¥28,350–

『XLARGE® / X–girl SAPPORO』
住所 北海道札幌市中央区南3条西2丁目3
WALLHALL–1F
TEL 011–271–2276
URL http://stima.jpn.com/

ripples A pierce W
Rubus. | ¥23,100–

徳永 麻美

『ARCH HERITAGE WOMENS』
スタッフ

「『Rubus』のアクセサリーはなんといっても、コンセプトの通り毎日お守りのように身に付けられる付け心地の良さが魅力。私も気に入って毎日付けているのですが、長年寄り添ってきたようにしっくりと馴染んでくれます。デザインは繊細で華奢なのですが、女性らしい存在感があります。計算された細かな作りで、外れにくくなっているのも嬉しいですね。デザイナーの手作業で作られており、配色や組み合わせが一点一点微妙に異なっているのも特徴です。カジュアルからパーティードレスまで、一点差すだけでスタイルのアクセントとして映えます。リングやネックレスなど種類も豊富で、プレゼントギフトとしても喜ばれています。」

【Rubus.】
植物学上のバラ科キイチゴ属の総称。小さくも立派な樹木であり、鋭い棘を持ちながらも美しい花を咲かせて実を結ぶ。このルーバスのように、装った人との間に生まれる“調和”を大切にいつもそばにあるお守りのような存在感を持つジュエリーを製作している。

『ARCH HERITAGE WOMENS』
住所 北海道札幌市中央区南4条東1丁目9–3 米村屋ビル–2F
電話 011–281–5560
URL http://www.arch–heritage.com

Skull Zipper Pull
SOUTH2 WEST8 | ¥840–

三浦 健人

『SOUTH2 WEST8』
スタッフ

「『SOUTH2 WEST8』のオリジナルジッププルトップ。表面にブランドのアイコンである“ディアスカル（鹿の骸骨）”が、裏面には“ターゲットマーク（標的）”が大きくあしらわれています。クリップ式で簡単に着脱でき、様々なファスナーの先端に取り付けられるので、ジップジャケットやパーカなどウェアに付けると、コーディネートのさりげないアクセントとして存在感を発揮してくれます。また、バッグや財布のファスナーに付けて、アクセサリー感覚としても楽しめます。北海道の冬では手袋は欠かすことのできない必需品ですが、ジップの引き手に付けることで、手袋を着用したままでも容易に開閉できる機能的にも優れたアイテムです。」

【SOUTH2 WEST8】
2003年に『NEPENTHES』の直営2店舗目としてオープンした札幌店から発信されるオリジナルブランド。ブランド名は、店舗の住所“南2条西8丁目”から由来。「ヘヴィーデューティー＆アイビー」をテーマとし、北海道の寒冷な土地に根付くハンティングやフィッシングなどのクラシック・アウトドア・スタイルを提案し、ウェアからバッグ・シューズ・アクセサリーまでトータルで展開している。

『SOUTH2 WEST8』
住所 北海道札幌市中央区南2条西8丁目2–1
TEL 011–280–7577
URL http://www.south2west8.com

ふたりのためだけに捧げる、"AI KOMORI"の特別なウエディングジュエリー。

小森 愛／『AI KOMORI』デザイナー

街の中心に浮かび上がる真っ白な3階建てビル。複合施設となる1階はギャラリー・イベントスペース、2階にはインポートブティック、そしてその3階にアトリエも備えたショールームを構えるのが、ウエディングジュエリーブランド【AI KOMORI】だ。

「オーダーのウエディングジュエリーを本格的に活動しようと決心したのは4～5年前で、当時は『東急ハンズ』裏にあるビルの一室で、その時に作っていたアクセサリーを併せたレンタルブティックを隠れ家的に開いていました。一坪くらいの店内の一角で、アクセサリーを並べてディスプレイだけで展開していたのですが、店内の片隅で一生物のウエディングジュエリーをオーダーしていただくのが申し訳なくて、いつかはちゃんとしたスペースを持ちたいとずっと考えていました。目標として路面店への移転を漠然と考えていたのですが、インポートブティックの『FORUTUNA』さんに声を掛けていただいて、昨年11月にアトリエを備えたショールームとして現在の場所へ移転オープンしました。」

デザイナーでありながらクラフトマンでもある小森愛氏が手掛ける【AI KOMORI】は、フルオーダーも可能なオリジナルのウエディングジュエリーを提案している。

「アクセサリーを作るうちにパーツ自体も自分で作りたくなって、教室に通って彫金を学んだのですが、だんだんとゴールドやプラチナも使ってみたくなり、そのタイミングで友人からウエディングリングを頼まれたのがきっかけです。ブランドとして展開している“オリジナルコレクション”は基本的にシンプルなのですが、私らしい個性がどこかに感じられるよう意識しています。“オーダーコレクション”は、いかにもではなく、日常の生活でも身に付けていただけやすいように気を配っています。お客様のオーダーをデザインさせていただく際は、サイズや質感はもちろん、好みや要望をできる限りお伺いして、それをいかにお揃いのペアリングとして反映させてデザインしていくか、打ち合わせをさせていただきます。デザインにもよりますが、製作期間は約2ヵ月ほどいただいていて、凝ったデザインのものはやはり時間が掛かります。例えばゴールドとプラチナの組み合わせは金属の特徴が異なり調整が難しいので、完成まであと一歩のところでまた一から作り直すことも少なくありません。」

丁寧な手仕事によって生まれるウエディングジュエリーは、機械では作り出せない既製品とは一線を画したあたたかみと美しさがある。それはまさしく、ふたりのためだけの特別なリングだ。

「完成してお渡しする際、中には感動して泣いてしまう方もいらっしゃいますが、頑張ってきて良かったと実感できる瞬間ですね。結婚式で配られるおふたりのパンフレットにも、当店を記事にして紹介してくださって、式が終わった後に届けていただけたりと、その後もお付き合いが続いていくのは本当に嬉しいですね。それを見てくださった別のお客様にいらしていただけたりと、口コミが徐々に広まって知っていただけているので本当にありがたいです。」

名前が人を表すように、自身の名前を冠したブランドはまさに小森氏自身が投影されている。

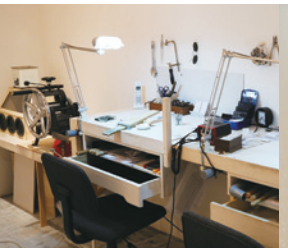
「もともとは“VERTU CORE”という名称で、現在は会社名にしているのですが、『ブランド名が読めなくて相当探しました』と何組かのお客様から声をいただいていたのもあって、移転を機にもっとわかりやすい名称に変更しようと思っていました。あれこれ候補もたくさん考えたのですが、由来や意味をこじつけがましく感じてしまい、たまたま自分の名前がウエディングジュエリーに適した“愛”という名前でしたので、最終的にはストレートに付けたのですが、それも自分らしい気がしています。」

集中した作業の合間に手を休め、店内で育てる観葉植物に水を与えるのがひとときのリラックス。静かで心地よい空間のショールームには、幸せに包まれたカップルが今日も訪れる。

「アクセサリーを作り始めて早くも12年になりますが、それまで様々なことを経験してきて、8年前にジュエリーを学んだ時に自分にはこれしかないと確信したんですよね。10年前からずっと変わらず同じ夢を追い続けてきて、まだ目標地点には到達していませんが、これからも地道に活動を続けながらひとつづつ形にしていきたいです。」

【AI KOMORI】
「結婚指輪は、ありきたりではなく、もっとお洒落に楽しんで着けてほしい。」との想いを込め、シンプルながらも手仕事ならではの質感にこだわったコレクションを提案。丁寧な手仕事によって生まれる指輪は、機械では作られない温かみと美しさがある。
URL http://aikomori.com

『AI KOMORI』
住所 北海道札幌市中央区南2条西4丁目10-6
SYMBIOSISビル-3F
TEL 011-211-0280
URL http://aikomori.com



アクセサリーで札幌の街を面白くするショップ『Titi』。

ハシバ チカコ／『Titi』オーナー

中心部から少し離れた、街角にひっそりと佇む古びたビルの一室。ギシギシと音を立てる木造の階段を上がり、扉を開くとそこには非日常的な異空間が広がる。

「オープンは2007年の4月で、次の4月で丸6年になります。頑張って3年くらいかなと思っていましたが、おかげさまでなんとかこの場所でひっそりと続けられています。長く続けるというのはやはり大変なことですね。今はこのフロア全部にテナントが入っていますけど、当時は当店しか入っていなくて、お客様がいらした方がびっくりしたくらいでした。最初の1年は本当にもう地獄でしたが…（笑）、口コミから徐々に広まり、目指して来てくださる方が少しづつ増えてきて、最近はありがたいことに関東や関西を中心に全国から通販のお問い合わせもいただけるようになりました。」

意外とありそうでない、アクセサリーを専門にセレクトするショップは、札幌はもちろんのこと、全国でも珍しく数少ない。

「もともとアクセサリーショップやるぞ！という強い意気込みがあったわけではなかったんですけど、昔から漠然とクリエイターが作品を発表して交流できる場所を作りたくて。あと、東京ですごく個性的なメガネ屋で働いていたことがあって、その時にアクセサリーの面白さに気がついたんです。私はユニークなアクセサリーを身に付けている方を見かけると、どうしてあれを選んだのだろう…？といつも気になってしまうんですけど、アクセサリーにはその人となりが表れるのと、気軽に身に付けられてぱっと印象を変えられるのが、洋服とはまた違った魅力があると思います。」

店内にはオーナーのハシバ氏が国内外から集めた、選りすぐりのアクセサリーや小物雑貨が所狭しと並べられている。

「コンセプトは『日常にちょっとした変化をもたらしてくれるもの』で、見て忘れられない、ちょっと気分を変えてくれるような個性的なものを中心にご紹介しています。たまたま作品が身に付けられるだけであって、もしかするとアクセサリーショップとは違うのかもしれないですけれど…（笑）。セレクトは国内外問わず、当店でしか扱っていないものも数多くあります。オープン前は東京の展示会へよく通ったり、海外で偶然出会った方もいたり、あとはネットやつてなどいろいろですが、気になったものはなるべく直接足を運んで、自分の目で確かめています。作家さんからの売り込みもいただくのですが、基本的には自分から声を掛けたいタイプです。」

アート作品から奇抜なアイテムまで、どれも際立った個性や主張を放つものばかり。眺めていると、思わず時が経つのを忘れて夢中になってしまう。

「こだわっているのは、やっぱり自分自身が楽しむことですね。札幌で身に付けているものが面白い人をもっと増やしたいと思ってショップを始めたので、まずは自分自身が絶対に面白いと感じるものを集めていますし、商品のセレクトに関しては妥協し

『エクレア山ウサギ』
イラストレーター・いそのけいによるプロダクト名義。
彼女の描くイラストがそのまま立体として具現化された作品。
エクレア山ウサギのブローチ｜¥1,200–

『Candle MOTHER』
札幌在住のキャンドルアーティスト。造形を主に幅広い活動を展開し、定期的に展示会も行っている。
脳ジェルキャンドル｜¥1,575–

ていません。札幌はなんとなく保守的に感じるので、もう少し遊びがあると楽しくなる気がします。やってみて難しさはありますが、個人的にはちょっとクセの強いものが好きなので、せっかく個人店なので思い切って振り切ろうと思っています…日々いっぱいいっぱいですけど(笑)。他ではないようなものが、ここに来たら何か見つかるかもと足を運んでいただけると嬉しいですね。」

信念に基づく決してぶれない感性と世界観は、クリエイターやショップスタッフをはじめ感度の高い人々から根強い支持を集めている。

「たまたまふらりといらしたお客様が、全くアクセサリーに興味がなかったのに、当店をきっかけにどんどん面白い世界にハマっていくのを見ると幸せを感じますね。その方が買ってくださったものを身に付けていろんな所へ出歩いていただけることで、それを見かけていらしてくださるお客様も多いので、本当にありがたいですね。」

自分の好きなものを発見する喜びは、ショップを訪れる楽しさを改めて気がつかせてくれる。そして、ショップではクリエイターとつながる様々な試みも行われている。

「作家さんの個展などイベントも定期的に企画して催しています。次回は1月10日(木)～20日(日)にグループ展を開催します。様々な分野で活動される個性豊かな26名の方々が簡易お絵描きソフトを使って制作した作品を展示するという趣旨となっておりますので、ぜひ気軽にお立ち寄りください。」

『Titi』
住所 北海道札幌市中央区大通西12丁目4–98 西ビル–202
TEL 011–261–0652
URL http://www.titi–titi.com

RACIAL SOUL
MARIA RUDMAN

北スカンジナビア・ラップランドの先住民族であるサミの伝統工芸を、
古来からの技術を受け継ぐ職人達の手によって、
今なおハンドメイドで製作するアクセサリーブランド【MARIA RUDMAN】。
それは何年も掛け自分の身体に馴染ませていくことで十人十色の経年変化を見せ、
丹念になめされたレザーの柔らかさや風合い、錫糸によって編み込まれた独創的な柄やモチーフは、
時を経る度に一層の輝きを増していく。

デザイナーであるマリア・ルドマンは、かつてモデル、スタイリスト、写真家など幅広い分野で活躍。現在はパリに拠点を置く彼女は、北スカンジナビア・ラップランドの先住民族サミによる手芸品が溢れる、スウェーデンの湖のほとりの家に育った。同じくマリアの家系もサミが古くから居住するラップランド地方の血を引く。古来よりトナカイと深い関わりを持ち、共存してきたことでも知られるサミの装飾品は、自然の産物と独創的な手仕事から生まれる。装飾品はお守りの意味を持ち、素材は遊牧民に身近なトナカイの角や革、骨。ベースの〝レインディア〟とも称されるトナカイの革は使い込むほどに柔らかく、味わいを増していく。酸化しにくい〝ピューター〟(錫糸)で描かれた刺繍も美しい。古くは17世紀から、何百年と語り継がれる伝統的なアクセサリーを継承すべく、マリア・ルドマンはその研究に幾年も費やし、伝統に現代の要素を加え、ぬくもりあるアクセサリーへと変身させた。「太陽の輪」と「東西南北」を意味する【MARIA RUDMAN】のロゴとなるクロスは、自然とのバランスを重要視する彼女の世界観を表している。そして、その製品は今や数名となってしまった、伝統的な手工芸技術を受け継ぐサミの職人による、手間暇を惜しまないハンドメイドから生み出されている。

『ARCH』
住所 北海道札幌市中央区南3条西8丁目 第一ビル-1F
電話 011-261-5083
URL http://archstyle.tv

『ARCH HERITAGE』
住所 北海道札幌市中央区南4条東1丁目9-3
電話 011-281-5560
ウェブサイト　http://www.arch-heritage.com

『JUILLET』
住所 北海道札幌市中央区北5条西2丁目 札幌ステラプレイスEAST-B1F
電話 011-209-5448
URL http://juillet7.exblog.jp

山内 公史『ミサンガインターナショナル』オーナー
SAMI-L/¥73,500-
着用期間　2年半

砂原 果『ミサンガインターナショナル』バイヤー
〈左手〉A-BRACE/A-O/¥19,950-、
B-BRACE/B-WABE/¥22,050-、
B-BRACE/B-24/¥22,050-
〈右手〉A-TRIPLE/¥22,050-
〈ネックレス〉MIKA/¥46,200-
着用年数:約2年半

宅見 玲央奈
TOGETHER RING /¥18,900-
着用年数:6ヶ月

高崎 美穂『JUILLET』スタッフ
A BRACE/¥21,000-、A-24/¥19,950-
着用年数: 2年

岩谷 洸太郎
SAMI-M/¥48,300-
着用年数:2年

渡辺 沙緒里『JUILLET』スタッフ
LINEN/¥33,600-
着用年数:1ヵ月

山内 公史

『ミサンガインターナショナル』オーナー

2010年5月、セレクトショップ『ARCH』の店頭に待望の商品が並び、北海道に【MARIA RUDMAN】が初上陸した。オーナーの山内公史氏が長い間思い描いていたアクセサリーは、北スカンジナビア・ラップランドの先住民族サミの古来から途絶えることと無く続く伝統、現在も受け継がれる職人の卓越した技術はもちろん、北海道の先住民族アイヌとも通じる民族の魂への尊敬と共感を呼び、入荷と共に即時完売し大きな反響を持って迎え入れられた。そして、山内氏が書き込んだ当時のブログには、デザイナーであるマリア・ルドマン氏との出会いの記憶が、深い想いと共に綴られている。

2010年1月某日。――――

あの日僕は、ある人物に会うためにパリのホテルのロビーでとても緊張しながらその人を待っていました。彼女の名はマリア・ルドマン。北スカンジナビアに位置するラップランド、あのサンタクロースが暮らしているといわれている伝説の地域。かつてそこにはトナカイと共に暮らすサミ族と呼ばれる遊牧民族がいました。

彼女はその地域で生まれ育ち、17世紀から続くサミ族伝統の手工芸技術を使ったアクセサリーを一点ずつハンドメイドで製作しています。それはレインディアと呼ばれるとても希少なトナカイの革を植物のタンニンで丹念になめし、ピュータと呼ばれるシルバーを5%含有させたスズを主成分とした銀糸で、一針ずつサミ族伝統の独創的なモチーフが編みこまれたバングル。留め具にはトナカイの角を削りだしたものを用いています。

今日、彼らサミ族は定住生活を営んでいると言われています。特にチェルノブイリ原発事故以降、トナカイの汚染が進み、伝統的な放遊牧生活を送ることはいっそう難しくなってきているそうです。彼女がこの製作活動を始めた背景として、サミ族の伝統工芸と、その伝統的な技術を持つ極僅かな職人達を守るためでもあると話しています。僕自身、アクセサリーというジャンルにおいては、着飾るというファッション的な意味合いを持つものよりも、自分の身体の一部として愛着を持って身に着けることのできる物、それはある意味、とても男性的な発想かもしれないですが、そういったものに巡り合えた時、初めて『ARCH』でアクセサリーを展開したいと考えていました。そして、それこそがマリア・ルドマンの作るアクセサリーでした。

あの日、ホテルのロビーまで娘さんと一緒に迎えに来てくれたマリア・ルドマン本人は、とてもスピリチュアルなオーラを放ちながらも、ものごしがとても柔らかい想像通りの素晴らしい初老の女性でした。緊張の中、無事にオーダーも終わり、ホテルを後にする自分に言っていた言葉がとても印象的でした。「私は北海道のアイヌの文化をとてもリスペクトしている。そのアイヌの伝統が引き継がれる地で、私の作るサミ族伝統のアクセサリーを紹介してもらえることはとても光栄です。」と。後に分かったことですが、現在サミ族は北海道の先住民族アイヌとの親交も実際にあるそうです。そういった意味でも、『ARCH』で【MARIA RUDMAN】のアクセサリーを展開できることは北海道人としてとても光栄なことだと思います。

（2010年5月28日）

『Blog from ArchStyle』
URL http://archstyle.tv/blog/

初めてマリア・ルドマンの元を訪れた時から早3年。現在も年に3回、パリにある彼女のショールームを訪れ、オーダーを入れ続けている。

結局、僕達の仕事は作り手の想いを伝えることが何よりも大事なんです。時には、スウェーデンの伝統的なビュッフェを御馳走になったり、近所にあるお寿司屋さんのテイクアウトを一緒に食べたりしながら、互いに様々な話をし、コミュニケーションを取っています。次回は、札幌時代の僕の友人がパリに寿司屋を出すので、そこで一緒にディナーをする約束をしています。

砂原 果

『ミサンガインターナショナル』バイヤー

ショップでは早くから【MARIA RUDMAN】を展開されていましたが、取り扱われた経緯について聞かせてください。

もともと、オーナーの山内は10数年前からブランドの存在は知っていて、日本でも当時ごく限られた店舗では取り扱われていましたが、『ARCH』の次なる展開として【MARIA RUDMAN】は必要不可欠なアクセサリーだと考えていました。まわりの噂では、デザイナーであるマリア・ルドマンは気難しく簡単には認めてもらえないと聞いていましたが、話だけでもさせてもらいたくて、バイインングでフランスを訪れる際にメールでアポイントを申し込みしたんです。結局、返信が無く会えるかどうかもわからないまま渡仏したんですけど、前日になって「ちょうどパリのホテルにいるから、良かったら会いませんか？」という連絡をいただけたんですよね。待ち合わせが四つ星ホテルのロビーで、「どんな方がいらっしゃるんだろう…？」と緊張していたのですが、現れたのは噂で聞いていたのとはまるで違う、物腰の柔らかい、穏やかで優しい女性でした。彼女と初めてお会いした時の衝撃は、自分にとってすごく大きかったですね。人柄や雰囲気からして素晴らしいものを作られているのはすぐに伝わって、案内された部屋で実際にアイテムを見せていただいて本当に驚きました。伝統的な手法を自らの感性によって現代に甦らせたアイテムは、単なるアクセサリーとしては括ることのできない、初めて見る類いのものという印象を受けました。

実際にお会いされて、マリア・ルドマン氏はどのような人物でしたか？

どんな方にも丁寧に接していて、本当に心優しい方という印象があります。マリアは19歳の頃に一度札幌へ来たことがあるそうで、ちょうど雪が降り積もっていて、とても美しい風景だったと嬉しそうに話していました。同時に、彼女はアイヌ文化に興味があり、とてもリスペクトされていて、ゆかりのある北海道のショップで取り扱ってくれるのは光栄だとも仰っていました。【MARIA RUDMAN】自体、北スカンジナビア・ラップランドの先住民族であるサーミ族の伝統工芸品なのですが、マリアはサーミ族の伝統文化を守り抜くためにブランドを始めたそうなんです。アイテムは一点一点、熟練の職人さんの手によって丹念に作られているのですが、その職人さんも今では僅かになってしまったそうで、彼女の活動によって伝統的な文化や技術が次の世代に受け継がれていくのを期待していますし、私達も微力ではありますが、その魅力をお伝えしていきたいと思っています。

【MARIA RUDMAN】のアクセサリーは、今や世界各国から注目を集めています。

出会ってから一年後くらいに、パリの都心部に【MARIA RUDMAN】のショールームがオープンされたのですが、1900年代初頭の馬小屋がリノベーションされた、とても趣のある建物なんです。歴史のある建築が保存されているパリの中でも、そこまで古い建築でショールームにできる建物は数少ないと思うんですけど、物件探しからも彼女の深いこだわりが感じられます。10坪ほどのフロアで、2階へも上がれるようになっているのですが、そのショールームには、彼女が実際に身に付けていた、現在ではもう作ることのできない昔の職人の手によるサミなどマリアの貴重なコレクションの数々が飾られています。実は『ARCH HERITAGE WOMANS』で取り扱っているコインケースやパスケースも過去のストックで特別に譲っていただいたものなので、今ある在庫で終了してしまう稀少なアイテムなんです。

バイヤーとして【MARIA RUDMAN】の魅力をどのようにとらえられていますか？

【MARIA RUDMAN】のリストバンドは、〝ピューター〟と呼ばれる錫の銀糸で、繊細な網柄が編み込まれているのですが、身に付けていくうちにその〝ピューター〟がさらにキラキラと輝いていきます。ボディはトナカイの革を植物性タンニンでなめして、留め具にもトナカイの角が使われているのですが、永く身につけることで柔らかく馴染んだり、風合いが出てきたりと、経年の変化を楽しめるのは魅力のひとつです。アクセサリーというより、自然と身体の一部のように感じられるんですよね。ラインも、古来の紋様をそのまま使っているのが〝オーセンティックライン〟、マリアの感性が落とし込まれているのが〝クラシックライン〟のふたつに分けられ、個人の好みによって選べるようになっていて、一見すごく個性が強いように感じるかもしれませんが、どんなスタイルにも相性が良くて、常に身に付けていられるアクセサリーですね。あと、女性は特になのですが、1本身に付けると、また2本、3本と欲しくなってしまうんです。マリア自身が両手にたくさん重ね付けしているんですけど、そんな彼女のスタイルが憧れで、私もその影響を受けて重ね付けしています。

Hard Asa Muthafxxka

古着の街・札幌の遺伝子を受け継ぐ、次世代の古着屋『HAM』抬頭！

狸小路からほど近く、ビルから続く階段を降り、幅狭い通路を進んでいくと、薄暗い地下の奥にネオンが鈍く光る。並びが蕎麦屋と美容室という意外性ある組み合わせも重なり、まるで秘密基地のように不思議な期待と高揚感を与えてくれるのが、今年6月にオープンした古着屋『HAM』だ。一歩足を踏み入れると広がる非日常的な異空間には、店内を埋め尽くすほど膨大な量の古着が、コーナー毎の提案にあわせて展示されている。どこか昔懐かしい古着屋の面影を感じさせながらも、壁一面にあしらわれたグラフィックアートやコラージュで覆われたフィッテングルームなど、独自の感性や創造性が吹き込まれ、独創的な世界観を生み出している。「ニューヨーク・ブルックリンの倉庫をアレンジしたギャラリーをイメージして、バイヤーがアメリカ東海岸で一点一点セレクトしたアイテムを展開し、ヴィンテージ愛好家は“決してしない”スタイリングを提案しています。ヴィンテージアイテム、ヴィンテージライクアイテムを素直に着こなすアメカジスタイルはもはや定番なので、その定番スタイルを自分なりに着崩しながら、古着ならではの風合いや味、その年代を表現された柄やディテールなど、ファッションをより楽しんでいただきたいです。今季は「mix&match」をテーマに、服の感覚をある部分では合わせ、またある部分では違ったものにして、ひとつのスタイルにまとめ上げるスタイルをおすすめしています。」どんなルールにも縛られない自由さが古着の魅力。価格はもちろん、サイズや状態などを自らの目で確かめながら、経験や直感を頼りにファッションを存分に楽しむ、その選択肢は無限である。若きオーナー・小熊氏と共に今なお進化を遂げ続ける「HAM」は、古着本来の、そして新たな魅力を発信し、次世代へ伝えていくという、明日を切り開く力強い意志を感じさせる。「ニューヨーク周辺で展開されているローカルブランドなど、とにかく古着にこだわらず、おもしろいモノを紹介できるショップにしていきたい。あえて古着を着ない、離れた人達に着て欲しいゲートとなるショップにまずなります。」

1. 古着の自由な楽しさを再認識させるレディースセレクト。
2. レザーからスニーカーまで、シューズの品揃えも充実。
3. 壁一面のコラージュが新鮮なフィッティングルーム。

『HAM』

住所 北海道札幌市中央区南3条西8丁目 大洋ビル-B1F
TEL 011-206-0622
URL http://www.xhamx.com

シネマ食坊（いしん）万歳

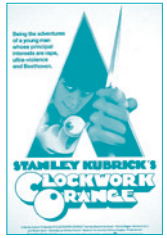
第3回

『時計じかけのオレンジ』と“ポンデリング”の巻

文　萩原ながら 改め
観ながら淳二

全道のテレビや映画を観ながら食事するタイプのみなさん、こんにちわ。どうせ観ながら食べるならば、より美味しくいただきたい。そんなわけで、“ながら食事”の“三ツ星的食い合わせ方”を紹介していきたいと思います。今回紹介したい作品はスタンリー・キューブリックの代表作『時計じかけのオレンジ』。

はっきり申しましてこの映画、食欲など全く湧きません。主人公の不良グループのリーダー、アレックスは暴力を愛し、強盗、強姦と悪行を重ね、あげく殺人を犯し、刑務所行きになります。この時点でこちらは“食欲ゼロ”でございます。刑務所に入ったアレックスは精神療法を受けることで、悪行できない体質に変わり早く出所しますが、因果応報的な目に遭い、飛び降りてしまいます。しかし命は助かり、目が覚めると病院で動けないアレックスが食事を食べさせてもらうシーンがあります。アレックスは口を大きく開け、「もっとくれ！」と言わんばかりに何度も口を開けます。このシーンはなんか腹立って仕方ありません。こちらはただでさえ食欲を失わされた上に、主人公は美味そうに飯を食っている。『シネマ食いしん坊』としてこれは許されざる行為そのもの！ここは一時停止してアレックスに負けじと何か口の中に放り込みたい！そんな時、一番オススメなのがみなさんご存知、【ポンデリング】です。あらかじめ、【ポンデリング】を“ひとポンずつ”にちぎっておいて、アレックスのごとく、口に放り込むのが美味しい食べ方です。言わずとしれたモチっとした食感は、なんと暴力と無縁なのでしょうか！改めて【ポンデリング】の美味しさを再認識できます。もはやこれ以上映画を観る必要もありません。戦時下に【ポンデリング】を降らせたら停戦するかもしれないと本気で思うのは私だけでしょうか…？ぜひ、お試しあれ！



『時計じかけのオレンジ』
1971 年公開。解説 鬼才スタンリー・キューブリック監督の傑作SF。完全に管理された未来社会で、エネルギーを持て余すティーン・エイジャーの暴力を風刺的に描く。

今回用意するもの
・時計じかけのオレンジのDVD
・ポンデリング
・暴力反対の精神

ウェブサイト
http://www.pilotfree.com
※2011年12月よりアドレスが変更になりました。
（旧アドレス http://www.pilot-publishing.jp/pilot/）
『PILOT magazine』（デジタル版）やウェブサイト限定の特別企画など、北海道カルチャーを独自に発信しています。

ツイッター
@pilot_tweet
次号の発刊日や最新情報などを随時お知らせしています。

『パイロット』ではクリエイティブな才能を幅広く募集しています。
『パイロット』では、クリエイター・フォトグラファー・イラストレーター・ライターなど様々なクリエイターを募集しております。
地元カルチャーを一緒に築いていきませんか？それぞれ下記、Eメールよりお問い合わせください。

お問い合わせはEメールのみで対応を致しております。
広告掲載のお問い合わせは下記まで御連絡ください。

有限会社パイロットパブリッシング
Eメール info@pilotfree.com
ウェブサイト http://www.pilotfree.com

『PILOT magazine』 December, 2012

スタッフリスト

出版 / プロデュース
イワムラ リョウスケ（Pilot Publishing）
http://www.pilotfree.com

デザイン
EXTRACT http://www.extract.jp
境田 逸人（bond graphic）http://bondgraphic.jugem.jp
高橋 大晴 http://www.hand-to-eye.com

フォトグラフ
アキタ ヒデキ（tootootoo）http://akitahideki.com
田中 将大 http://www.ac.auone-net.jp/~shutter/

印刷
株式会社 総北海

Pilot Publishing co.,ltd. All right reserved
© 本誌掲載の写真・記事の無断複写・複製・転載・引用を固く禁じます。

ムートンブーツ/GOOD LIGHT/
ショート¥16,800-～24,800-、ミニ¥14,800～19,800-
（カラー:ブラック / ブラウン / グレー / ネイビー / ブラック&ホワイト / ブラウン&ホワイト / デニム / ヒョウ柄 / 迷彩柄 / ペンデルトン）

【GOOD LIGHT】オリジナルの色柄豊富な本革ムートンブーツが登場！

アメカジを基調に独自の感性を加えたオリジナルアイテムを展開する【GOOD LIGHT】より、ハラコなど様々な色柄の生地を重ねた、贅沢な本革ムートンブーツが登場！品質の良い本革ムートンは、しっかりした厚みと柔らかな肌触りで、保温性も高く北海道の冬には欠かせないアイテム！雪や氷でも滑りにくいウェーブソールが使用されており、長時間歩いても疲れにくく、耐摩耗性にも優れています。そして、なんといっても素材や色などバリエーションが豊富なので、年代や性別、スタイルを問わず幅広く楽しめます。最近は〝ポニー（馬革）〟をハラコと称されることもありますが、こちらのハラコ素材は100％〝牛〟のハラコだけを使用しており、一足ごとに柄が異なるので同じものはありません！現在〝ペンデルトン〟柄が数量限定でリリースされている他、新作のデニム柄も12月上旬頃に入荷予定です！

GOOD LIGHT

古着屋で長年に渡り培ってきた知識や経験をもとに、アメカジを基調に独自の感性を加えたオリジナルアイテムを展開。古着リメイクやチェーンステッチ刺繍など、あたたかみある古き良き一点物も数多くリリースされている。

ハラコ
牛や羊などの胎児あるいは生まれた直後の毛皮のことで、ビロード状でなめらかな肌触りが特徴。1頭から取れる面積が小さいことや、他の革に比べて採取できる効率が悪いため、稀少な品とされている。

『di colore』
住所 北海道札幌市中央区南2条西4丁目 PIVOT-2F
TEL 011-219-4344
URL http://ameblo.jp/di-colore

『CAL』
住所 北海道札幌市中央区南2条西3丁目1-2 三番街ビル-1F～3F
TEL 011-242-0355
URL http://www.hr73.com

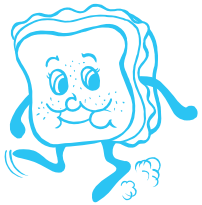
『MARUYAMA-BASE』
住所 北海道札幌市中央区南2条西18丁目291-31-1F
TEL 011-623-5766
URL http://chop.co.jp

『AVANTGARDE』
住所 東京都渋谷区神宮前3-22-7 藤原ビル-B1F
TEL 03-6804-3739
URL http://www.avantgardejapan.com

HASAMIYA & CO'S
sandwich works

本格デリスタイルのサンドイッチ・ショップ『HASAMIYA』が、12月12日（木）にNEWオープン!

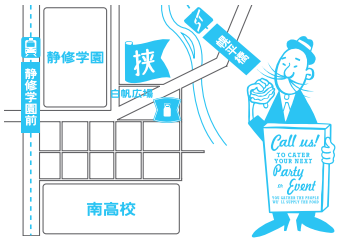
本格デリスタイルの“サンドイッチ”を提供する専門店『HASAMIYA』が、2012年12月12日（木）に札幌・山鼻にてNEWオープン!「オイシーがポリシー」をコンセプトに、安心して食べられるものを気軽に食べられるようにと、海外のデリをそのまま焼き直すのではなく、札幌の地域性に根ざしたショップとして、日常的な“サンドイッチ”を提供。ベーコン・ハム・パストラミなどの具材をはじめ、ジャムやケーキもほとんどが手作り。“ホットサンド”は南部鉄器で焼き上げるので、熱々でサックサク、中はトロットロ!その他にも、名物・“ポテトサラダ”、ジューシーでフワッフワな“タマゴサンド”、秘密のレシピの“バナナブレッド”などサイドメニューも充実!イートインはもちろん、テイクアウトもできるので、通勤・通学途中に美味しいランチを用意できるのも嬉しい。心とお腹をいっぱいに満たしてくれるこだわりの“サンドイッチ”、ぜひ一度お試しあれ!



HUNGRY? *You're not alone.*

Monday - Saturday 7:30 am - 6:00 pm

HASAMIYA の開店時間は朝の 7:30。
通勤・通学途中にオイシーランチを
お買い求めいただけます。
是非ご利用下さい。



住所 北海道札幌市中央区南16条西5丁目3-13 住地ビル-1F　TEL 011-221-0868

ANNOUNCING
the
Grand Open
of
HASAMIYA & CO'S
sandwich works

2012.12.12

WE BUILD
THE BEST SANDWICH IN TOWN.

フリンジマフラー / BLACK SHEEP/¥6,090-
ミトン/BLACK SHEEP/¥3,885-
ニットキャップ/BLACK SHEEP/¥5,355-

イギリス産唯一の黒毛羊の、脂分が多く含まれた上質なウールが使用されており、他の羊毛と比べて保温性と撥水性に優れています。ざっくりとした質感と自然な風合いが魅力。世界各国で愛用される定番アイテムは、スタイルを選ばずあわせやすい、大人向けのミトンです。

【Black Sheep】
1996年創業の英国のニットブランド。ブランド名は実在の羊種に由来。絶滅寸前だった英国産唯一の品種"ブラック・ウェルシュ・マウンテン・シープ"の毛を採用し、保温性と耐水性を持つニット製品を創り出している。

ファーティペット/Lindas/¥9,975-
レザーグローブ/Burfield/¥16,800-

品質の良いラビットファーがあしらわれたティペットは、上品なフェミニンでスタイルにスパイスを加えてくれます。ワンピースやコートに巻いたりと幅広く活躍してくれます。グローブは立体的な作りで、指の形が全て異なっており、外れにくくフィットしてくれます。革がしっとり柔らかく、使い込むほどに自分の手のに馴染んでいきます。

【Burfield】
1944年に創業の英国のグローブメーカー。今では英国に3社ほどしか残っていない"メイド・イン・イングランド"のファクトリーで、現在では僅かとなった「グローブ・カッター」と呼ばれる職人の手により、丹念に製作されている。

フェアアイルマフラー/ROBERT MACKIE/¥4,410-
ニットグローブ/ROBERT MACKIE/¥2,415-

かわいらしいフェアアイル柄と色鮮やかなカラーリングが魅力。古くから伝わる手法で丁寧に織られており、独特の風合いを創り出しています。素材にはスコットランド産の100%ピュアウールを使用。細めの毛糸で編まれているので、チクチクしにくく、肌当たりがとても優しいです。

【ROBERT MACKIE】
1845年創業のスコットランドの老舗ブランド。伝統的な製法を守り続けながら、帽子やスカーフ・マフラーなど様々な編み方や柄のニット製品を100年以上に渡って製造し、世界中に発信している。

チェックストール/Traditional Weatherwear/¥14,700-

【Mackintosh】のセカンドラインで、流行に流されない定番アイテム。伝統的なチェック柄は種類も豊富。大判サイズなので、ストールやショール、膝掛けなど用途も様々なので一枚持っていると重宝します。

【Traditional Weatherwear】
英国マッキントッシュ社の旧社名でもある往年のブランドを2007年に復刻したもので、カジュアルなトラッド感が魅力。英国的なアウターウェアを再解釈し、そのベーシックさは残しつつも、"時代性"を加味した新たなブランド。

matiere naturelle plus
WINTER DAYS

北海道の厳しい冬の寒さから、
身体をあたたかく守ってくれる防寒小物。
今年の冬は、上質素材と伝統技術で世界中から愛される
"インポート"をセレクト。

『matiere naturelle plus』
住所 北海道札幌市中央区南2条西4丁目
PIVOT-3F
TEL 011-231-7033
URL http://s-bbd.com